

r e p o r t

事例レポート ①

# 除雪から始まった中学生ボランティアと福祉のまちづくり

北野地区福祉のまち推進センター

多雪地帯の北海道では、除雪作業がなによりも冬の生活を確保するための前提条件である。独り暮らしの老人や体の弱いお年寄り世帯にとって除雪作業は想像以上に過酷である。

札幌市清田区にある北野地区は、1995年の福祉のまち推進センター<sup>※</sup>の設立とともに、中学生ボランティアが高齢者住宅の除雪サービスに乗り出し、大きな話題を呼んだ。

あれから17年、中学生のボランティア活動は四季を通して北野地区のさまざまな福祉活動に広がり、小学生や高校生の参加も促してきた。

子供たちの参加を息長く呼びかけ、見守り続けてきた一瀬ヒロさんは、「子供の頃から助け合う気持ちを育ててもらえれば、地域は元気になれる」と力強く語ってくれました。



北野地区福祉のまち推進センター代表  
一瀬ヒロさん

## 除雪サービスから始まった中学生ボランティア

除雪サービスは、北野地区で社会福祉協議会ができたときにいち早く開始した事業でした。当時は、老人クラブに声をかけて行っていたので、80歳の元気な老人が70歳の弱い方の住宅の除雪をすることもあったほどでした。老老介護ならぬ老老福祉です。

1995年に、これからは福祉の時代であるということで、北野地区にも「福まちセンター」ができましたが、そのときにそのような実態がわかってきました。

これではいけないと思っていたとき、中学生に除雪ボランティアを呼びかける機会が偶然やってきました。地元の北野中学校で先生たちと福祉団体が懇談する席に呼ばれました。中学校が少し荒れていると聞いていたので、私は「一体、いまの中学生は何をやりたいんですか」と先生に尋ねたのです。そうしたら、「本当はボランティアをやりたいがってるんです」と答えてくれたのです。全く想像もしなかった答えだったので驚きました。そこで私は、「それじゃ、丁度いいボランティアがありますよ」と言って、除雪のお願いをしました。先生は野球部の監督をやっておられましたが、自分のクラブの生徒に声をかけて下さって、先生自ら生徒がきちんと除雪できているかどうかを確認しながら学校へ出勤してくださっていたのです。

1年目、中学生の担当は3軒程度から始まりました。現在では、申し込みのある90軒のうち42、3軒と半分近くを担当してもらっています。69名もの中学生が参加してくれているのです。朝、雪が10cm積もっていたら登校前に除雪し、放課後10cm以上積もっていたら下校時にも除雪をして家に帰るのです。除雪は玄関先で幅90cmと決めています。救急車が入ったときに車椅子が通れる幅を確保しているのです。

## 中学生ボランティアが広げる相互交流と世代間交流

1年間やってみて意外とうまくいったので、隣の北野台中学校にも声をかけました。そしたら「いいですよ、うちもやりましょう」ということになりました。その後、清田高校の生徒も大雪が降ったときには参加

※ 福祉のまち推進センター

「福まちセンター」と呼称される。札幌市では福祉除雪など福祉のまち推進事業を進めていくために、市民による自主的な福祉活動を行う組織として地区社会福祉協議会（おおむね連合町内会）ごとに「地区福祉のまち推進センター」を設置し、各地区で活動を行っている。北野地区福祉のまち推進センターは1995年に設立。

してくれるようになりました。

除雪で住宅を訪問したときと帰るときには、必ずそのお宅に声をかけるようにしています。それが高齢者の安否確認にもなります。1シーズンに何回かは生徒たちから具合の悪いお年寄りの連絡が来ます。最近は、除雪を終えて子供が家に帰るときには、「お宅のお子さんは、今、帰りましたよ」と子供の家に電話で連絡をしてくださるお年寄りも出てきました。北海道の冬は除雪が終わった頃には真っ暗なのです。ボランティアが女の子の場合は特に心配になりますから、連絡をしてくださる気遣いがうれしいですね。

ある町内会では、除雪でお世話になったとして、お年寄りがそのお返しに子供たちの通学路の見守りをやりましょうと言ってくださいましたし、子供たちの方も公園の清掃をさせてくれと言ってきたり、地域には少しずつ助け合いが広がってきています。

### 教育としての助け合いの精神を育てていく…

#### いろいろな思いを乗り越えて

シーズンが始まる前には、子供たちへの説明会を開き、除雪ボランティアに参加してくれる子供たちの親御さんには手紙でお知らせして、お礼を言います。

しかし、住民のなかには、なんで子供たちにこんなつらいことをさせるんだという人もいたり、子供とペアを組んでやっている大人の除雪協力員の中には、子供たちがいると歩調を合わせてやるのが面倒くさいという人もいます。

メディアで取り上げられると往々にして美しい話だけが表に出がちですが、現場では皆さんのいろいろな思いや苦勞がありますし、私は、シーズンを通して子供たちが無事でやってくれているかどうかだけが心配で、気を緩めることができません。



北野中学校生徒による福祉除雪（下校時）

#### 人を思いやる気持ちを小学生から

北野地区では除雪とともに、高齢者宅への弁当配達サービスも社会福祉協議会ができた当初からやってきました。「お弁当を高齢者宅に届けるのが見守りにはもっともいい方法だ」と北海道の社協ではしきりに勧めていました。お弁当は女性部の人たちが献立を考え調理して、民生委員の方々が400近くもの弁当箱を並べます。お弁当を詰めるのは、北野中学と北野台中学の生徒たちです。去年は30人もの中学生が手伝ってくれました。そのお弁当には、小学生がお年寄りに書いてくれた手紙が添えられていて、お花と一緒に中学生と民生委員が配るのです。年1回11月末に配るお弁当をお年寄りの方々は本当に喜んでくれます。

手紙を書いてくれたお礼に、小学生には北野の裁縫クラブ「遊布の会」がつくった防災頭巾を贈っています。小学校へ配りに行くと、「防災頭巾をもらったお礼に、中学生になったらボランティアに参加しようね」と、先生が言ってくださるようになりました。

小学生の心が素直なうちに、人を思いやる気持ちを育ててもらいたいと思っているのです。そして、中学生になったら除雪などのボランティアを実践してもらって、将来、地域を元気づける人に育ててもらいたいというのが私の願いです。

### お祭り好きな北野だから福祉もお祭りにして…

#### 夏祭りに福祉テント

地域が元気かどうかは地元のお祭りを見ればすぐわかります。「北野ふれあい夏まつり」は花火大会が札幌でも何本かの指に入る豪華なものです。3万人近い観客が訪れます。町内会連合会が主催する、地域あげてのお祭りです。



北野ふれあい夏まつり

福祉のまち推進センターではアシリベツ川（厚別川）河川敷の会場に福祉テントを設けて、高齢者の方のお世話を中学生と民生委員の方々がやるのです。食事を運んだり、車椅子を押したり、参加者側もみんなで助け合って楽しんでいます。

#### 福祉をお祭りにしよう！

福祉のまち推進センターでも独自のお祭りを立ち上げました。夏が「ふれあい夏まつり」なら、秋は「北野福祉まつり」です。去年で13回目になりました。

連合会館と児童会館を会場にして、子育て支援事業から始まり、出し物は腹話術、日赤奉仕団は血圧や骨密度の健康測定、女性部は喫茶コーナーやカレーレストランなどを開きます。

昨年、私たちを非常に驚かせたことがありました。民生委員の方々が、演劇を上演してくれたのです。出し物は「おおきなかぶ」というよく知られているお話です。子供たちも本当に喜んでくれました。普段、民生委員の方々は受け持ちの高齢者が決まっています、個別に仕事をされているので、舞台の準備やけいこなどを皆さんが協力してやっていたのだと思うと、本当にうれしくなりました。福まちセンターは民生委員の方々が常日頃蓄積してきた高齢者の方々の細かい情報をもとにして活動していますので、両者の信頼関係がないと仕事ができないのです。福祉まつりは、団体相互の信頼関係を育てるのにも役立っています。

もちろん、中学生も喫茶コーナーなどでボランティアとして参加してくれています。お祭りには800名くらいの方が来てくださいますが、中学生や民生委員、地域の皆さんが一緒になって支えてくれています。

#### 四季を通してボランティア活動

子供たちのボランティアは、春のアシリベツ川清掃から始まります。北野地区の団体や住民1,000名もの人が参加してくれます。日赤奉仕団が救護班を各所に設けてくださり、中学生はそこに2名ずつ張り付きます。また、ごみ拾い班にも多くの中学生が参加してくれます。

そして、夏が来ると「ふれあい夏まつり」、秋は「福祉まつり」と弁当配食、冬は福祉除雪で締めくくりです。

ボランティア活動に参加できる機会をたくさん作ってあげることも、子供たちの参加を促すうえで大切なことです。

#### 地域全体の理解と協力があってこそ

北野地区は高齢化率が26%で、70歳以上の1人暮らし世帯も増えています。将来、誰が地域を支えていくのかを考えたときに、子供を育てておかなければなりません。特に社会を理解し始める中学生から地域の福祉活動に参加してもらってボランティア精神を養ってもらうことが重要です。高校生になって突然お願いしても、「いくらくれるの?」とか、「交通費は出るの?」とかすぐ言いますからね。「子供たちを育てておかなければ、この後、地域全体が困ったことになりますよ」と、いろいろなところでお話をしています。だから、私は中学生にすぐ声をかけるのです。

子供たちのボランティア活動は親御さんをはじめ、地域の方々の理解がなければ進みません。特に「地域を共につくっていく教育」に対する理解です。

これからは、地域が方が一のときに、パワーを発揮してくれる親御さんの世代の参加も期待しています。子供たちが育ち、そこに親御さんが参加してくれると、これほど頼もしい地域はないと思います。



秋の北野福祉まつり